

健康テラス

がんばれ! にっぽん! コロナに負けるな!!

過敏性肺炎

過敏性肺炎は、カビ・細菌・鳥類の糞などの有機物質、または化学物質などの無機物質を長期間吸入することによって生じるアレルギー性の肺炎です。急性過敏性肺炎と慢性過敏性肺炎に分けられます。

急性過敏性肺炎は、発熱・^{かいそ}咳嗽・呼吸困難などの症状。慢性過敏性肺炎は、慢性に経過するため無症状のことも多くあります。進行すると呼吸困難などの症状が現れ、慢性間質性肺炎・肺線維症との鑑別が困難になります。

一番多い夏型過敏性肺炎は、5～10月にかけて発症するトリコスポロンというカビによるもので、日当たりや風通しの悪い湿気の多い場所に発生します。台所・風呂場・洗面所などの腐った木・畳など要注意です。

また、鳥(鳩など)を飼育している人、公園など野鳥がいる環境に長期間暴露されている人も注意しなければなりません。そのほか、キノコ栽培(胞子の吸入)・加湿器(カビ・細菌の吸入)・塗装(塗装に用いる化学物質の吸入)なども原因となることがあります。

診断は、臨床症状・住宅環境・季節性・職業など様々な要因を考え、免疫学的検査をもって総合的に判断されません。

治療は、ステロイドを使用することもあります。一番は原因となる環境の改善です。掃除・住環境の改修、場合によっては転居も必要で、職業に関する場合も同様です。



長沢医院
長沢 達郎 先生



肺結核症

肺結核は結核菌という細菌が肺に感染して起こる病気ですが、肺以外にもリンパ節、腸、骨などにも感染します。

肺結核は人から人に感染します。かつて脚気と並んで二大国民病とされ、1950年まで日本人の死亡原因第1位でした。その後BCG接種による予防法、健診での早期発見、治療法の進歩によって減少したものの今でも年間2万人近くの発病者が見られ、毎年2,000人前後の人が死亡しています。

感染の経路と発病は咳をした時に出る細かいしぶきに結核菌がふくまれており、近くにいる人が吸うと感染します。食器などのものから移ることはありません。感染しても発病する人は10%前後で多くの人は感染に抵抗して免疫ができますが、その後高齢になったり免疫力が落ちた時に発病することがあります。

症状は咳、痰、^{たん}だるさ、発熱、^{けったん}寝汗、体重減少などあり、2週間以上咳が続く場合、血痰がある場合は胸部X線検査を受けてください。

検査は胸部X線、胸部CTで特徴的な影を見つけ、ツベルクリン反応や血液検査で分かる場合がありますが、痰を調べ、顕微鏡観察や培養(6週間かかります)で菌があれば診

断になります。治療は4種類の抗結核薬の内服で6ヶ月(2ヶ月後は2種類に減ります)と長く、途中でやめず、治療終了までしっかり続けます。治療が中途半端になると薬剤耐性結核となり薬が効かなくなってしまいます。

結核は治療をしっかりと最後までできればほぼ治る病気です。確率は低いですが、再発することもありますので治療後2年間は定期的に胸部X線検査をします。早期発見、早期治療のため、定期的に健診を受け、気になる症状があれば早めに医療機関を受診してください。



長与病院
本多 光幸 先生

